

消化器癌における HYBID(Hyaluronan-binding protein involved in hyaluronan depolymerization)、TMEM2(Transmembrane protein 2)、CCDC25(Coiled coil domain containing protein 25)発現の臨床的意義に関する検討

## 1. 研究の対象

2010年1月～2020年12月に当院で食道癌、胃癌の診断で手術を受けられた方

## 2. 研究目的・方法

近年、食道癌治療は、拡大内視鏡の進歩による早期発見率の向上により、進行度の低い症例は放射線化学療法が導入され、手術においては胸腔鏡手術、ロボット手術による低侵襲治療が進められています。また胃癌においても、腹腔鏡手術、ロボット手術による低侵襲治療が導入され、免疫チェックポイント阻害薬をはじめ、化学療法も多様化されています。しかしながら、食道癌の術後5年生存率は約30%と依然として予後不良で、胃癌においても、2020年の本邦のがん死亡数3位(男女計)であり、他癌と比較して高い再発率である高悪性度の癌であることから、再発リスク予測の重要性が増しています。治療選択の指標は進行度分類では十分とは言えず、再発の危険性をより鋭敏に反映する悪性度分類の確立が求められています。本邦では主組織型や脈管侵襲など各種癌取扱規程に記載のある病理学的因子に基づく現状にあるが、これらの因子には、進行度分類に比して予後分別能が低く、また客観的診断基準が乏しいという欠点があります。近年、ヒアルロン酸分解に関与するHYBID及びHYBIDと同じ構造をもつTMEM2、またがん転移機序の新たな可能性が示唆されている好中球細胞外トラップに関与するCCDC25の過剰発現が膵癌、大腸癌、乳癌などのさまざまな癌腫で、予後不良因子として報告されていますが、食道癌や胃癌において、分子生物学的機能についてはほとんど解明されていません。そこで、本研究では、食道癌、胃癌などの消化器癌を対象に、HYBID、TMEM2、CCDC25の発現意義を検討し、本研究により食道癌、胃癌領域で腫瘍の悪性度を評価する新たな指標を見出し、消化器癌における既存の治療の進歩や新たな治療方法の開発に寄与する可能性があります。

研究期間は学校長承認後より、令和8年12月31日までの約4年間を予定しています。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：対象患者の臨床病理学的背景、転帰

試料：手術で摘出した病理検体

## 4. 研究に用いる試料・情報の管理者

## 資料 3

試料・情報の利用については、研究用の ID 番号を作成し、直ぐには個人を特定できないように加工したもの（仮名加工情報）を作成します。作成時の情報については外科学講座 永生高広が厳重に管理します。また、加工後の情報についても、この研究に参加する研究者のみで利用します。

### 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

外科学講座 藤嶋 誠一郎

住所：埼玉県所沢市 並木 3-2

電話番号：04-2995-1637（対応時間：平日 9 時～16 時）